あの人この人

苦しむ患者と家族の力になりたい

群馬県難病団体協議会
元会長

渋沢　東三夫さん（高花台一丁目）

世界の希少・難病性疾患の種類は６０００種を超えると言われています。日本では、厚生労働省指定難病が333疾患、指定疾患は45疾患あります。全国をまとめる組織は東京にあり、地方組織に群馬県難病団体協議会があります。難病団体協議会は患者・家族、医師、製薬会社、一般企業が会員となって運営されています。

難病は疾患数が多いため、医師の判断ができないものや、治療には特定の病院が指定されることもあります。また、治療方法があっても障害が残るもの、病の進行を抑える薬品の副作用に苦しむものなど、精神的にも経済的にも患者の負担は大変です。近年では、治療にＩＰＳ細胞を利用する方法が注目され、将来に期待するところですが、実用化には時間がかかるうえに、すべての病に治療効果が見込める訳ではありません。

群馬県難病団体協議会設立に尽力され、渋沢さん自身も難病と闘い、約40年の辛い時期を家族は勿論、会社の上司・同僚、友人に支えられて乗り越えてきました。今は、食欲不振、原因不明の微熱等があり、体調良好とは言えませんが、近くの友人と1時間程度の散歩、食事会、カラオケなどを楽しみ、病の事を考えないようにしているそうです。

渋沢さんの手帳を覗くと、小さな文字で予定がびっしり。総会、部会、分科会であったり、シンポジウム、相談会など、難病に関係するものばかり。協議会の活動が停滞気味なのが気になり、会議には必ず出席して助言を行っています。

渋沢さんが心掛けているのは、病のご機嫌を損なわないよう、病と仲良くする、歯を食いしばって頑張る、薬を多用すること。そして、病による苦痛や多額の費用負担など、患者の負担を少なくしたいと力強く語ってくださいました。

難病によって患者や家族は、医学でも福祉でも対応できない様々な不安をかかえています。悩み苦しむ患者は、家族の思いやりや患者会の仲間との交流が、前を向く大きな力となっているそうです。

高花台一丁目生涯学習奨励員　田村泰彦

前橋市立図書館芳賀分館だより
あたらしく入った本の紹介

一般書

	著者名
祝祭と予感	恩田 陸
ライオンのおやつ	小川 糸
人間	又吉 直樹
どうしても生きてる	朝井 リョウ
人を乞う	あさのあつこ
背中の蜘蛛	誉田 哲也
小箱	小川 洋子
彼女たちの犯罪	横関 大
新蔵唐行き	志水 辰夫

児童書・絵本

魔天使マテリアル　28
魔女のいじわるラムネ
おばけひめがやってきた！（おばけマンション）
おじいちゃんの小さかったとき
おばあちゃんの小さかったとき
みんなが知りたい！宇宙のひみつがわかる本

～ほかにもたくさん新刊が入りました～

★毎週木曜日は休館日です。
★12月2日（月）市内全館休館
☆12月5日（木）芳賀分館臨時「開館」
★12月7日（土）芳賀分館臨時「休館」
◇12月15日（日）11時～読み聞かせ・工作